

## 対話集会

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 説明
4. 質疑

### 【道の駅富士川周辺整備、避難所について】

参加者： 町長ご自身が全部説明されて、他に説明させるのではなく、町長一人が説明されたことに心強く思いました。

阪神大震災から30年ということで、当時の映像が多く、テレビ等でも放送されましたが、高速道路が横倒しになった映像を多くの方が見られていると思います。あのときなぜあのまま横倒しになってしまったのか。当時、私気になっていろんな映像見ていましたが、まず専門家の方が河川敷は弱いんだと。一番弱いところに今みたいに立派なものを作っても、とおっしゃってる専門家の方がいます。

町長は今、道の駅をはじめ周辺の開発を進めていきたいとおっしゃっていましたが、そこはちょっと心配なところではあります。何千年何万年、歴史が作ってきたその地盤の弱さに人間がいくらそこに立派なものを作ったとして、大きい地震が来たとき、増水したときに、耐えられるのか。できるだけそういうところを避けて、作るべきじゃないかなという不安があります。

それに合わせ災害時に町で決められた避難場所とかの問題があります。最終的な避難場所より、遠くなるような一次避難所。二次避難所は雨風も防げないようなところで、無線連絡を待ってからの最終的な避難の場所に行くという。その無線が使えなくなった災害もあります。やっぱりそのときに無線がないと避難ができないような状態。しかもそこは屋根もない場所であったり、足腰の弱いお年寄りがそこに2次避難場所まで行ったとしても、さらにまた戻って、最終的な避難場所に行くというのは、とても無駄であり、いざそういう最悪の場面のあるときに、につきもさっちな動けない状態になる気がします。

それであるならば、幸い海と津波がない。集団でどこかに避難しなければ、何か津波に襲われたりとか、そういった二次災害とかが内部であれば、最終的な避難場所よりか、多くの二次避難場所ってというのはちょっと考え直すべきなんじゃないかと。無線がもし使えなかった場合、どうしたらいいのかということが、とても気になることです。

町長： 東部の方は危険ではないかということのご指摘。

まず1点目、当然その東部の河川敷の方は、ハザードマップのエリアということもありますので、役場庁舎とか、その重要な避難所、建造物については、なるべく東部の方には建設をしない。ただ主要な建物とか、今後も大きなインフラをやるつもりはありませんが、そういった形でやっていきたい。ただ、あの周辺をリバーサイドパークとか、平時の賑わいの拠点にするのはいいんじゃないかなという発想の中で、様々な公園整備ということで進めているところです。

そしていざ何かあったときに避難する場所が遠くては困るということですが、まさに最初の72時間は、物資救援もこない中で、自分たちで自助近助共助という形で安全確認をしながら、何とか72時間持ちこたえてくれというようなことが国からも出ています。そうした中で、必要なのは私たちが持つ地域コミュニティです。近所の顔が見える。そしてこの人はどうしてるのか。これって、東京とかではもはや作れないものなんです。私たちの富士川町だからこそ、まだ何とか残っている近所の付き合い、災害時のそれぞれのお互いのですね、救援助け合いということ。これこそが地域の宝ということだと思っています。ですから、近助共助という部分を大切にしながら、まずは人命、自分たちの命を守る。

そしてマイタイムラインというものがあります。豪雨災害のときには、その時間をさかのぼった形で想定しながら、まず自らの命を守っていく仕組みもやっていきたいと思っています。こういった部分、役場職員全員が、普段から教育も受けている中ですから、またあの詳細の部分、心配な部分がありましたら、ぜひともお問い合わせいただければと思います。

**参加者：** 私も気になって何か解決方法はないだろうかと考えてきました。私の地域の話であれば、一次避難場所はサンロードの駐車場、二次避難場所はいきいき館の駐車場になっています。いきいき館の駐車場まで行くには、細い道路は危ないですから、閉鎖するかもしれない。一応国道まで下がって、また登って、いきいき館の駐車場までいかないといけないとは思いますが、能登半島の地震のように、道路封鎖されて建物が崩れ落ちたり、どういう状況になるかわからない中で避難しても、いきいき館の駐車場は屋根もないわけですよ。果たしてどういふんですかね。離れたところに避難するのであれば、私だったら例えばご近所の方に年寄りがいるから、ひとまずは、庭か車の中で待たせてもらって、その最終的な避難場所へ外に避難させたいと思います。そうでないと、長い距離を二次避難場所まで行ったとしても、そこが最終的な安全な避難場所じゃないわけですよ。

無線で、その最終的な避難場所は、知らされる方ももしかしたら連絡ができないかも知れない。そういうお年寄りたちをそこでいつまで待たなければいけないのか。先ほどのニスカの駐車場が避難場所になるという。私も例えばサンロードの駐車場で一次避難場所であるのであれば、無駄な手間も省けますよね。

**町長：** また再考していただければと思います。

【議員だよりについて】

**参加者：** 議員さんたち、今日いらっしゃってるかと思うんですが、議会の広報の他にね、議員さん自身のチラシなんかをいつも配布していただいています。すごくそれがありがたくて、私たち町民にしてみたら、議会の様子などなかなか知る機会がなくて、そこに参加するか、あとテレビで放映されてるのを見るのかぐらいしか、町の状況がわからなくて、議員さんが出していただいているチラシっていうものはとてもありがたく、感謝している次第です。

今日、町長の説明を聞き、とてもPR、町長の動きに対して、敬意を表したいと思えます。その中で議員さんのチラシの中で今回目を通した中で気になる部分がありまして、お聞きしたいんですが、町長の日頃の出勤状況が、役場の方で把握されてないっていうような内容の文書もあって、すごく不安になりました。

今日お話を聞いてすごく活力ある内容で、毎日活動していらっしゃる町長に対して、本当にこういう状態で日々過ごしておられるのかということをお聞きした方がいいのかなど思っています。お願いします。

**町長：** 出勤状況については公務全て、職員全体で私の動きが見えるようになってます。どこかありますか。出せますか。

**町長：** そしてチラシということで話がありましたが、私のところにも怪文書みたいなものが撒かれているよってということは聞きました。皆さんこのチラシ見られた方はいますか。7人ぐらいですね。ほとんどそういうのを見られてないのかもしれませんが、びっくりしまして、私も慌ててチラシを探して見させていただきました。

政策的な議だったら、やらなきゃいけないんですが、要はすごく私も心を痛めています。事実とは違う部分で、あたかも本当のように書かれてるような表現もあったり。

1人の方のチラシには、組織とか何とか。これは完全に誹謗中傷です。侮辱罪にあたるのかもしれませんが。訴えれば。ひと月とか、嘘を重ねてるというような表現があったということで、ぜひとも皆さんこのチラシに惑わされることなく、正しい情報をしっかりとオフィシャルの部分で取っていただきながら、そして今日も県議さんも来ていらっしゃいます。2人に来ていただいています。しっかりと議員活動として出すのは、議会報告とか議員報告ということが書いてあります。

意見広告というのは気をつけてください。これは自分はどう思うっていう。ですからこれを現職の議員さんが堂々と、こういった事実と違うチラシを撒いて、町民の皆さんをあらぬ方向に進めていくという、私はこれは許せません。本当に言語道断だと思います。皆さん、しっかりこういう議員さんはチェックしてみたいと強く思っているところです。

**町長：** 私のスケジュールです。これは職員全員が共有しています。これは12月です。まず8時半から打ち合わせ、産業振興課へ9時から10時に政策会議。そして告別式に参加して来客。そして打ち合わせで生涯学習としました。18時からJR東海と意見交換会ということで夜の部もやっております、その間にはずっと一般質問の検討会。議員さんが一般質問をする中でどういう答弁をしようかというのを叩く作業を間にやりながらずっと過ごしている、ということです。

見てのとおり、土曜日も、全国物産オープニングセレモニーとか結婚式でたりとか、様々な大きなイベントの大会等に招待をされて出ているということで、これが何をしてるのかわからないという表現というのは当てはまらないと思います。

そして職員全体がこの予定をパソコンで確認することができます。先ほど話したとおり、よそから様々な寄付をいただいて、町の財源のためにプラスをするふるさと納税を、企業版を入れてもらうためには、これ以外のお付き合いが必要なんです。これ以外のですから、もし仮に休みの日があっても完全に休日はないです。夜中でも、ぱっと目が覚めて、あっ、このことどうなっちゃったかな。目が覚めて、メモをして、また寝る。でもなかなか寝れないこういうことを、私もそうですし、副町長もそうです。役場のトップはみんなこういう気持ちで町を何とかしたいというふうに動いておりますので、ぜひとも皆さん正しい情報をしっかりと得ていただいて、正しい判断をしていただきたいと思います。

**参加者：** ありがとうございます。正しい情報そのものが町民にはよくわかりませんので、それが分かるようにしていただければと思います。

**町長：** ありがとうございます。皆さんのお手元に行ってる広報とか、町のホームページ、これはオフィシャルですから、正しい情報が伝わると思います。

そして議員の皆さんが、議会だよりということで発行している、これもオフィシャルなものですから、正しい情報です。ぜひともその辺を参考にさせていただきたいと思っています。

#### 【空き家対策、水害対策、地方創生、中部横断自動車道、三郡橋付近の道路改良について】

**参加者：** 町への提案です。町長からのご説明で、財政が非常にひっ迫しているっていうことを感じましたので、どうかと思いますが、用意してきたので発表させていただきます。

5つほど提案事項があるんですが、まず、一番に空き家対策です。

人口減少でどんどん人が減って、先ほどの説明にもあるとおり、解体後の現在はその土地の税率が上がっています。これを町の特例で検討していただきたいという、抗議をしていたきたい。

それから解体する費用もやはり問題があるのではないかと思います。このまま放置しておく、火災にも繋がるという気がします。それがまず第1です。

次に水害防止対策。先ほども最近の雨の降り方が線状降水帯なんて、昔は使わなかったような言葉で、山梨はそれほど現在のところ被害が少ないんですが、多分それがまともに来たら、排水は富士川しかないものですから、被害が大きくないから。

それで一番の問題は山間部に放置されてる木材です。伐採した後の木の撤去、それからそれらを下刈りをした。木々が散らばっている。これを県の方、森林総合組合とも連携して解決していく。

それから3番目、先ほど町長からの説明で、だいぶ力を入れてるということで町の活性化、いわゆる地方創生で、今年の春コストコが開店する予定になっています。そうなったときに、道の駅富士川への客が当然増えるかと思えます。その人たちを道の駅だけで止めるんじゃないくて、町全体へ入ってもらうための観光にも一つ、力を入れていただきたい。

それから、4番目。中部横断道の渋滞の対策。これも検討していただきたい。これは当然県とか、あるいは国との折衝になるんじゃないかと。

それから5番目、これ高校生なんか非常に思っていることですが、三郡橋の西側の道路が、あれは謹吾製紙という、紙問屋の手前がボトルネックになってるところがあります。これを南アルプスと相談して、県の方へ聞いていただきたい。

この5つを提案します。

**町長：** より具体的なご提案をいただきました。ありがとうございます。

まずは空き家対策です。本当に今空き家が増えており、危険空き家という部分もあります。実はこれを受け、空き家の相談窓口を、町では窓口を作っております。そして新年度から、空き家対策、そして住宅政策ということで一元化して、窓口を一本化しようという動きもあります。ぜひとも役場の方の窓口、個別の心配事もあると思いますが、役場にとにかく来ていただき、空き家の問題点というものを、一つ一つ丁寧に解決していきたいと思っています。

2つ目は水害防止対策ということです。実は町もハザードマップを公表しています。見たことありますか？電柱に浸水何mということですから、まさかここまで水が来ることはないだろうという部分をしっかり表示をさせていただいて、皆さんのまずは人命を守っていただくということをやっています。

そして浸水対策、水害対策ということを国と連動しながら、流域治水という考え方の中で、富士川の流域全体で治水をやっていくということ。基礎自治体、県、国と、連動して治水対策をどうしようかということをやっています。浚渫しゅんせつといいますが、富士川の底を掘ったりとか、あと禹之瀬のところをもう一度対策しようという話もあります。しかし禹之瀬を開発すると、流れが良くなるので、今度下流の方が水害が出てしまうという。流域全体の水害対策をどうしようかという議論を今盛んにやってる次第です。

明確な答えはまだまだ出てきませんが、とにかく人命を守っている、財産を守るということをやっていきたいと思っています。

そして町の活性化ということで、コストコが来るからどうするんだということです。まさにコストコが来ます。そうするとお客さんがたくさん来ます。個性を持っているもの。だからコストコにはないもの、そういったもので町と経済の活性化ができるんじゃないかなと思っています。

町には、個性を持っているおいしいパン屋さんや、珈琲屋さんとか洋菓子和菓子屋さんがあります。そういったものが逆にお客様が来ることによって相乗効果で売れていく。そして道の駅富士川周辺も、ねじり菓子とか、富士川町にしかないものも、お客さんが来ることによって経済が回っていくと思っています。

その中で渋滞対策は大変だろうというご指摘をいただきました。まさにそれが近々の課題です。国交省に実は要望書というのを出しています。中部横断道4車線化ということは今要望書を出しています。これが実現できるかどうかというのは先、まだ北部区間というのがあります。長坂～八千穂間といい、軽井沢の方に出る。そこが仕上がると同時に、4車線化をやってもらえないかと要望活動を繰り返しているところです。

そして、道の駅富士川の北側のインターチェンジ周辺を新しい駐車場にしていこうということで、防災関連の駐車場にしていこうと。平常時は道の駅富士川に訪れる人たちの車が停められるようにするというので、道の駅周辺も開発しながら、交通渋滞対策をしていこうということです。

あと三郡橋西の道路が狭いところのボトルネックを何とかしようということです。いま承りました。これについても、県また南アルプス市と協議させていただきながら、問題点を洗い出していきたいと思っています。今日は県議さん2人も来てますので、県議さんにも普段から力になっていただいておりますが、一緒に協力してやっていきたいと思っています。

**議長：** 先ほど女性から、チラシのことについて質問がありました。私、富士川町議会の議長をしております、堀内と申します。そのことについて、議会ではどうしたかといういうことをお答えさせていただきたいと思います。

実は、質問にありました職員に聞いたらどこ行ったかわからない、何をしてるかわからないということが書いてありました。これを議会としても、困ることだから調査をしました。

そうしましたら、その議員の質問に対して答えた職員は誰もおりませんでした。そして先ほど、あのパソコンから出したスケジュールを、私も見せていただきました。それこそびっしりと今後の予定が出ています。ですからあれを見れば、町長が今日どこ行ってるかわかります。ですから、職員があんな答えをするはずがないんです。

それを問題にしまして、過日議員の全員協議会という会議を行いました。そして本人に注意をしました。その内容を副議長である秋山仁議員から話をさせていただきます。

この問題は町長個人の問題ではないんです。町全体の問題なんです。疑問はやっぱり払拭しないとけないと思っていますので。

**秋山副議長：**

先ほど議長の方からチラシについて、回答というか、先ほど画面に出ましたが、タイムスケジュールがつぶさに出ていますから、勉強以外でも、これについては議員からも質問が出たりしました。ですから先ほど出ましたように、職員からは言ったことがないということが確認取れたということ、報告させていただきます。以上です。

**【山王地区の水について】**

**参加者：** 私たちが住む市川三郷町山王地区は、市川三郷町ですが、富士川町の水源が使われており、富士川町から水が支給されています。その水が、水質に問題はないとのことですが、エコキュートやシャワーなどの配管が詰まってしまい、毎年高い修理代を払っている現状です。

以前に望月町長にご相談させていただいたときに、水源をという回答をいただきましたが、今後それがいつごろになるのかという回答をいただきたくて、参加しました。お願いします。

**町長：** はい。ご心配おかけしてすみません。山王地区に給水されてる水はすごくミネラルが高いのです。ですから、我々は本当にミネラルウォーターで生活している。しかし一方で、そのいまのエコキュートなど、新しい技術のものについては、ミネラルが多いからこそ、それが詰まってしまうという現象が起きてしまいます。エコキュートを入れ替えても、またすぐに駄目になってしまうということで、山王地区の住民の方からご意見をいただいたところで

これはやります。新年度6月末までにはしっかりと、水源を切り替えます。増穂地区に供給している水を切り替えて、山王地区にも供給するようにしますので、ぜひともご心配なく。そして、その情報がみんなに届いてないかも、届かないかもしれませんので、ぜひ近所の方々に、遅くも夏にまでには、この切り替え作業をやっていきますということをお伝えして、安心を届けていただければと思っています。

**【議員だより、富士川町の水について】**

**参加者：** 先ほどのチラシの話ですが、私も一言言わせてもらいます。

エアポートに議員さんたちが呼ばれて乗って遊んだと書いてありましたが、議員さんたちは本当に遊ぶ目的で乗ったんじゃないとは思いますが、この方は遊んだと書いてありました。他の方の感想を聞きたいなと思っています。

そしてもう一つですが、町が、本当に借金が増えてちょっと不安になりましたが、一つ町の活性化に少しは助けになるんじゃないかと思い提案させていただきたく思いました。

富士川町の水って、私のある友人が水質検査をしてもらったところ、亜鉛が通常の20倍、増穂町の水には含まれているそうです。とんでもなく素晴らしい水だって言われたそうです。だから、これは、どういう装置ができればいいかなと思ったので提案しました。先ほどのエアポートの件もよろしくお願いします。

**町長：** 私の方からお答えさせていただきます。エアポートは、災害時に人命を救命するために、利根川水系に導入されているポートです。茨城県の境町というところが、そのエアポートを導入しております。これは、千曲川の災害のときに、そのエアポートを持っていきまして、何十人もの人命を助けたという実績があるポートです。境町とはいろいろ提携といいますか、連携をしながらまち作りについて意見交換をしてる中で、一度栄町のエアポートを持っていきますから体験してくれと。富士川水系も、この水害のときに救援できるものもあるということで、体験で栄町の方から持ってきていただいた。それに対して議員さんも含めて私も乗りました。しっかりと乗りながら、水害に対する救援体制をどうやって作っていかうかということ、問題提起をさせてもらったということです。決して遊びで乗ったわけではありません。

2番の水の話です。私も東京に行って自慢するんですよ、うちの町は車洗うのもミネラルウォーターで洗っていますよと。実際全ての水源、水が、湧き出すものです。ですから、水のブランド化は非常に有効だと思います。ぱっと水のブランド化といって、浮かぶのは白州とか北杜の方です。上手に水をブランド化しています。水というのは命の源でございます。食べ物、野菜、果物、そしてお米。全てがこの水を介して、我々の体も、町の水から我々の体はできている。水のブランド化というのは、ぜひ今後検討して進めていきたいと思っていますので、素晴らしいご提言をありがとうございます。

【移住、たはたの宿について】

町 民： 今LINEで、オンライン見てる方からちょっと声が聞きにくいというメッセージいただいたので、ちょっともし調整ができればお願いします。

実は、富士川町平林に移住を考えている方からの提案をいただいたので、それを読み上げさせていただきます。

私は東京都に住んでいる者です。たまたま訪れた富士川町平林でご縁をいただき、田んぼと畑は6年前からお借りしています。地元の方々が優しく受け入れてくださり、毎月1、2回は富士川町に日帰りや宿泊でお伺いさせていただいております。顔なじみも増え、農作業やお祭りに参加させていただき、楽しく充実した時間を過ごしています。町民の皆さんには感謝しています。実は私、近いうちに富士川町に引っ越したいと考えています。これまでも移住しておられる方もいるようですし、私と同じよう考えている方もいると思います。

移り住むというのは簡単ですが、たくさんハードルがあります。例えば住居、仕事、学校、医療、福祉、人間関係などなど。そのハードルを下げていくといたくための仕組みを考えていただけないかと思います。

具体的に三つの提案をさせていただきます。

一つ目は、移住のためには相談をワンストップで受けられる場所が欲しいということです。富士川町のホームページのトップに移住を考えの方というバナーがありますが、ここに載っている情報だけでは実際に移住検討を進めることは難しいと感じます。

二つ目は、移住を考えている個人や家族向けの滞在体験です。移住を考えている人が数日滞在し、同時に情報を得ることで移住する、生活になるというイメージを掲げることができると思います。

三つ目、子供のホームステイです。首都圏などの小学生たちが宿泊施設や家庭、お寺などいろいろなところに泊まっていただき、富士川町の子供たちと一緒に山で遊び、川で遊び農作業や料理をする、その貴重な体験を家庭に持ち帰って家族ぐるみで富士川町のことをよく知ってファンになっていただく。将来的に移住へのハードルが下がるということだと思えます。既に検討されているのかもあろうかと思いますが、ぜひ実現に向けて取り組んでいただければと存じます。

というメッセージをいただいておりますが、この提案の中で私が一つちょっとまず質問させていただきます。平林にあるたはたの宿の今の稼働率、利用者数を教えていただけたらお願いしたいです。

町 長： まさに移住者目線といいますか、当事者目線のご提案だと思います。

ワンストップ化、また体験、ホームステイということ、しっかりと実行していくことによって、この富士川町に魅力を感じていただいている方々が、よりここに来て住みたいと思ってくれることが、実現していくのではないかと考えています。

たはたの宿の稼働率ということでお答えさせていただきます。令和4年度、たはたの宿が利用人数が17でした。それが令和5年度になり、210。そして令和6年度の12月末までで383まで伸びてきました。これは令和5年度から、やはりもっと稼働率上げなきゃ駄目だということで、キャンペーンを行ったり、指定管理者の皆さんが努力をしたりして、上がってきています。そして町民向けのキャンペーンもやったりもしています。

4人定員に1万円とか1泊1万2,500円とか。非常に有効なキャンペーンで、町民向けにやっています。チラシを作って発信しています。こういう努力を積み重ねながら、トライアンドエラーですが、少しずつ利用者が増えている状況です。

**参加者：** 私も実は富士川町に住んでいながら、たはたの宿で地元の方たちや県外の方と過ごしたことがあります。実は1月、2月、3月で全部空いてます。8日空いています。今年間で300人ほどだと言っていました。年間でいうと多分ほぼ空きがほとんどの状態だと思います。このたはたの宿に対しては、批判があったり、中傷もあつたりしますが、要はマイナスのことを言っても仕方がない。いまある自然だとか、資源を大切にしながら、活かすということが大事だと思っています。

そこで、たはたの宿がすごく空いているので、移住されたい方を、どうやって証明するかは別として、役場の方でそういう手続きをして、安くはなっていますが、やはり滞在するとなると、それなりにお金がかかるので、そこで何日か住むとか、1ヶ月くらいという制度とか仕組みを作るとより皆さんが気軽に来て、いろいろな町を巡りながら、氷室神社だったり、農業体験するっていうことも可能だと思うので、ぜひ検討していただきたいと思います。

**町長：** 先ほどの提案の中の、体験という部分で、空いているのであればそこを移住体験、宿泊体験の場に使ったらどうかというご提案です。

確かに空いてるものをそのまま放置していたら何にもなりません。こういったチャレンジをしていきながら、なるべく富士川町に興味を持っていただく、そして体験した方々がこちらに移住してもらい、もしくはそれを聞きつけて、「じゃあたはたの宿いいとこだから泊まってみたいね。」という人を増やしていくということ。あるものを、どうやって活用していくか。過去のことを言っていて仕方ありません。今ある資源を少しずつリニューアルしながら、グレードアップしながら、資源として使っていくかということだと思います。前向きなご提案ありがとうございます。積極的に検討していきたいと思っています。

#### 【空き家対策について】

**参加者：** 町長から、町の現状の、また昨年の推移いろんな財政シミュレーションを、町民に共有する形で提示していただいたことは非常に良いことだと思いますが、なかなか民間の場合だと執行部でどれだけの開発的な、ああいうシミュレーションを出すことはなかなか勇気のいることで難しいことです。でも、やはり我々はこういった数字を見なくちゃ。町の状況を聞いて、我々こういう年配者にとって、5年先10年先どうなるんだと。数字になる、一目瞭然だと思っています。

その中で一つだけ、ちょっと心配というか。私は、青柳町ですが非常に空き家の問題がすごくて虫歯の状況になっている。私の住んでる地域は、総入れ歯的な状況です。1件、2件じゃないですね。2本3本繋がって空き家とか。4件丸ごと空き家とか。これを空き家バンクとか、空き家対策で、何とかしようといったところで、なかなか難しい、現実問題。個々に一つ一つの虫歯を治療するとか。もちろん、緊急にそういうことをせざるを得ないこともあるんでしょうが、長期的に5年、10年、20年先を見据えて、再開発と結びつけたらどうか。望月町長まだお若いから、長期的な展望でこういった政策を、行政でできるかどうかわかりませんが、何とか民間のデベロッパーなどと提携してでも、何とか。さきほどの説明で実施予定である事業の中に住宅政策ありました。それで先ほどの質問の中で、空き家問題を一元化すると、表裏一体ですね。やはり空き家問題と、この住宅政策をぜひ一体化した形で、具体的に何か、予定や、そういったことはありますか。

**町長：** 先ほどから空き家対策ということで非常にご意見をいただいているところでございます。また、私の実家の近くということで状況もよく存じているところでございます。

ですから、空き家対策は、これまで官と民といいますか、公でなく、民間のもの、個人のものだから手を出せないっていうところがあります。全てその個人の責任の中で、空き家の方、相続もしていないところもあつたりだとか、管理の方は個人がやってもらうということですが、もうそうは言ってもいられない状況になってきているのが現実だと思っています。今全体的な再開発も含めて、一気に行政がもっと介入してやっていったらどうかというご意見をいただきました。なかなかそこまでの大きいものは、しっかりと計画しなければ進みませんが、民間に対して、公がどこまで介入して、どうやってこの空き家対策をクリアしてい

くのかつていうところまで、やはり検討しなくてはいけない時期になっていると思っています。

これが今まだ立ってるからいいんですが、徐々に徐々に立ち枯れた空き家、危険空き家になっていく可能性もあります。まだ今だったら空き家を活かすようにできる可能性もあると思います。移住者政策の中で、その移住者の受け皿とするとか。

例えば、民泊という部分で活用方法もあるのかもしれませんが、ここで、こういったようにやりますということは言えませんが、これだけ多くの空き家対策のご意見をいただいている以上、これについてはしっかりと持ち帰らせていただき、検討していきたいと思っています。何らかの時期にしっかりとお答えをしていきたいと思っています。少しお時間ください。

**参加者：** ぜひ、前向きに積極的に手を打っていかないとおそらく先はないと思います。それでやはり、住宅も、例えば今ある4軒建物が繋がっているとすれば、今の住宅ですから5軒、6軒はそこに生産人口の方々が新しい住宅に入っていただければ、人口の下げ止まりは、やはり生産人口が増えない。移住者とか、そういった形も結構ですが、やはり地元の生産人口は増えていかないと、やはりまち作りとして一番最初のことです。町はどうなるかっていうこと以前に、もう郡が成り立たなくなる。ということは、住民が成り立たなくなるってことです。そういうことを含めてやはり住宅政策を考えて、生産人口が下げ止まりするような方針を考えていただきたいと思います。

#### 【高齢化社会、耕作放棄地について】

**参加者：** 私は3年前に東京からこちらに住みまして、この富士川町ですが、非常に便利な町だと思っています。そして今回いろいろな問題がありますが、一言で言うと人口減少なんです。

このペースでいくと、先ほどのシミュレーションもあるように、富士川町がいずれ消滅してしまうと。そのために何をするかというと、いわゆる2025年問題といって、高齢者75歳以上の後期高齢者が、要するに今年からもう団塊の世代というか、そういう人たちの高齢者の社会になってしまいます。どんどん高齢者ばかり増えて若い人は少なくなります。そうするとどういうことかということ、要するに社会保障。医療、介護、年金、これは崩壊してしまう。要するに働く人が減れば、当然税収も減りますし、我々の子供の頃は、大体10人近くの若い人が1人の高齢者を、というところが、これからどんどん一気に、高齢者ばかりになってしまうと、もう介護、医療、年金が倒壊してしまう。

そこで今までのいろんな問題はありますが、全体施策ももちろん、これからも全部この人口減少です。それから1人ずつ今の農家が、農家のおそらく平均年齢70歳以上だと思う。そして事業主。会社の社長さんは、これらの全部80%以上がもう60代以上ということはおそらくもう20年もたてば、その人たちは、もう退職してしまう。常に目標そのものがですね、人手不足で消滅してしまうと。そうしますと、じゃあ人口減少を食い止めるにはどうしたらいいかということ、若い人が結婚しないとか、要するに失われた30年。我々の昔の30年間給料が上がってない。あと社会保障です。これが増えると税金が増える。そういう状態では結婚の機会、あるいは子供です。さまざまな問題が関連していると思います。

他人事に言えませんが、私の提案は、畝沢の耕作放棄地の農地が、どんどん増えていくと思います。今70歳の方が10年、20年経ったら、もう大体80過ぎもいますし、亡くなる方もいます。もうそれはもうわかりきったことなんです。それで生活は苦しくなるのは当たり前です。

**町長：** まさにご指摘のとおりです。かつてはたくさんの方で1人の高齢者、つい最近までは騎馬戦状態だったと。今は、肩車状態になりつつある。1人の若者が1人。今後は、1人の若者が複数の高齢者を支えていかなきゃいけないみたいな、ご指摘のとおり状況です。町内だけではありません。日本全国がそういう状況になっている。

これは人口推計のグラフを見ればわかります。釣り鐘型だったものが、団塊の世代が多くて人口が減っていくという、状況になっている。ですから先ほどおっしゃったように、一つのこと事象だけを取ってやろうとしてもこの問題はクリアできない。さまざまに複雑なものが絡み合っていて、日本全体が縮んでいってしまうという状況。ご指摘のとおりです。

そんな中で先ほどあったとおり耕作放棄地が増えてしまい、その農家に住居している方がほとんど高齢じゃないかということでご指摘をいただきました。私も、耕作放棄地を解消という部分、対処していかなきゃいけないという視点はあります。

一点、東京から農業生産法人の会社さんを連れてくることができました。そこは、耕作放棄地を使って地域を耕しています。この動きをもっと加速したいと思っています。町内でも、米を作って生計を立てている素晴らしい事業者が、いくつかあります。こういった方々をしっかりと応援して、もう維持できない耕作放棄地を県の農政部と連動しながら、圃場整備を進めました。一つの大きな圃場にしていく。そこでその農業生産法人の方々に、入っていただくことによって、その農地は生きていくというような、こういうことを描いています。農業政策も含めて、農業生産法人、その農地を生かしながら生産力を上げていくことをやっていきたいと思っています。

もう一つキーワードは「米」だと思っています。何をこの町長が言い出すのかと思ったかもしれませんが、米が命の源、食の源です。日本の食料自給率何%かわかりますか。大体40%ぐらい、40%を切ってます。ということは、3食に1食しか有事の際、食べられなくなります。そうなったときに、日本人の主食である米というものをしっかりと地域内で自給自足できるような仕組みに変えていかなきゃいけません。ですから、遊休農地をしっかりと生かして、米を、町内でどうやってストックして、町内で活用できないかということを考えています。

一つの事例として、バウムクーヘンのARURAは米粉でできています。地産地消6次産業化。この米粉を原料、そして地元の卵を原料として、地元のもので商品化までしています。ですから、米粉とか米製品をキーワードに、しっかりと商品化して、普段は、米を全量町が買い取る。例えば、町が買い取ってストックをしておく。災害時にはその米を町民に配る。そして平常時は、そのストックした米を米製品にして販売していくことによって、地域経済の6次産業が成り立つという、夢ですが描いています。

でも一つの突破口がARURAのバウムクーヘンで描いています。こういった形で地域の食を守っていききたい。その食料自給率、災害時の食だけはそういう形で守っていききたいなという思い描いているところでございます。素晴らしいご指摘でした。

#### 【給食について】

**参加者：**先ほどの質問とも関連するところがありますが、いのちのごはんという活動していて、有志の町民で子供たちの学校給食の野菜を無農薬、化学肥料で作って、給食センターの方に outsourcing していただいています。なぜ、その活動を始めたかということ、富士川町の持続可能な食と農の仕組みを作っていかなければいけないというところは、町長と同じ考えかと思えます。昨年11月22日に、町で地元の食材100%の給食を提供していただいたというニュースを見て、私たちがそこから始めたらどうかなっていうことを、やってくさったと思ってとても嬉しく拝見しました。そのニュースの中では、山梨県内の食材100%ということでした。先ほど町長がおっしゃったように、お米、地産地消していくのは大事だよ。有事の時に、そのお米を町民が食べていくためには、普段からそういうお米を作っておかなければならないということですが、まずいのちのごはんのと代表からのメッセージを代わりに伝えさせていただくと、地元の遊休農地の解消と合わせた、地産地消の施策ということで、今回の給食の食材は山梨県内の食材100%ということでしたが、町長がやる施策としたら、町内産100%を目指す。ただ、この食べるということで、さっき地産地消100%を目指すのではなくて、作って食べるということで、農家の方の支援だとか、農業人口減ってるとか、遊休農地の削減するためっていうところも一緒に合わせた給食の地産地消というところを考えていただきたいと思っています。

先ほどARURAはお米を出してるっていいことでしたが、できれば保護者の私たちの立場で言うと、お菓子で使うのではなくて、地元のお米で給食のお米をまかなってもらえたら、それは地元でできたものなので、子供たちの体に合っていると思いますし、地産地消になっていると思いますし、有事の時に、本当に給食の食材がなくなるってこともあるけど、地産地消でやってるところは有事の時も困らないし、給食費も上がらないというデータが出ています。なので、ぜひその辺もお金にしていくのは大事なんですけど、子供たちの健康とか、食の安全を大事に考えてやっていただきたいと思っています。

もう一つ給食の無償化ということでしたが、無償化にするとやはり財政のこともあるし、どうにか予算を抑えよう、抑えようというところに働いていくのかなと思います。地産地消というと、やはり地元の農家さんが、農業をやって食べていくためには、それなりの食材費がかかってくると思います。そのところを無償化と子供たちの食の安全性とか地産地消というところが反比例してこないのかなというところが少し疑問です。ですので町長にお伺いしたいのは、地産地消、地元の遊休農地の解消と合わせた給食の地産地消の施策のお考えをお聞かせください。

あと昨年オンライン開催をしていただけたら嬉しいですよと申し上げ、今年早速実現していただいております。今日欠席している友人から、年2回やってほしいと。この会は1回では少ないので、2回ぐらいやってほしいなという声もありましたので、またその検討をお願いします。

**町長：** 過日テレビ放送で報道でもあったとおり、地元の食材100%の給食を富士川町の子供たち食べさせることができました。実はまさに富士川町の食材100%でやりたかったんです。でも現実には、富士川町の食材100%は無理なんです。先ほど話したとおり、コスト的な問題もありますし、物が集まらない、また季節な問題。ですから、思っている以上に私たちは自分たちの食べるもの、作ることができてないという現実です。少しでも皆さんに注目してもらいたい、給食の食材を地元の地産のものでやっていこうということで、少しずつ増やしました。。少しずつ増やしていくと、インパクトがない。じゃあ何かメッセージを皆さんへ伝えるために、1日だけでいいから全部地元のものを使った給食をやろうということで計画させていただきました。

まさに地元産100%までたどり着くことが理想だと思っています。でも実は、地元の食材を使う、これは日本の経済といえますか、食と経済の部分のかなり闇の部分、闇の部分という言い方は変ですが、難しい部分です。やはり大量生産している外国の食材の方が安いです。財政的に厳しい中、指摘があったとおり、予算を抑えようということで反比例しないか。そういう状況が既に起きています。なるべく抑えるために、そして調理の時間を減らすために、品質も揃えるために、より効率よく給食を提供するためには、やはり画一的な規格のものをなるべく安く、大量生産しているもの、その中でいかに安全なものをどうやって選ぶかというところで、現場の給食を作ってる方々が悩んでるところです。ですから、これをしっかりと地元産のものに戻していくには、思った以上にハードルが高いです。それでも一つ一つ、皆さんと議論しながら、工夫をしながら、進めていきたいというところです。まさに町内産100%というのを目指していきたいななと思っています。一步一步進んでいきましょう。

それと給食費無償化、これにはお金かかるのではないかとということです。これについては、お許しいただいて、私は実はこれまで大きな事業をしていません。何もしていないというか、ふるさと納税からいただいたお金で事業はしています。そしてメディアにたくさん出るように、皆さんの機運を高めようということで、いろいろなことをメディアを使って発信していますが、実は大きな事業していない。でも給食費無償化だけ、これだけはお許しいただいて、一般財源を使わせていただいて、安定した一般財源、皆さんからいただいているその税金から、子供たちの給食費だけ無償化させてほしいと、新年度はこれだけお願いしていきたいと思っています。

**参加者：** 町長にお願いしたい質問は、こういった機会を町として、日常的に町民の方々が役場の窓口に行ったり、電話をしたり、ちょっと役場の方まで歩いて行ったりとか、こういう意図がないと、町民の声を日常的に役場に、要するに役場の職員一人一人が真摯に耳を傾けて、前向きに受け取って検討して実現の方向に向いていく。そういう動きから役場の職員に広がっていく。要するに、先ほどの町長の話、財政に対して非常に頑張っておられるのはよくわかります。普段そういうことを聞く機会はあるしなかったもので、町民の声を、誰に対してどうしていいのか、町民の声をもっと増やしていくにはどうしていかってということをされておられなかった。ぜひそういう面をこれから。

私もそれに対して、窓口に行ったり、電話をしたりしますが、要するに、はいはいと言って、なんにも。それだけ。検討しない。大いに検討して、そういう方法がありました。そんな返信は全くない。こういうふうでは大変だと思う。町をもっと好きになる。そういうこと

には結びついていかない。空き家の問題とかいろいろありますが、いろんな声を、例えば役場で一応聞いてくれて、それが全部報告されてる。こういうことが、町民が元気になるし、やっぱりいいな。役場よく反応してくれてるな。そういうことになる方法でし。収入は上がらないけど、なかなか良い町にしよう。良い町になった。そういうものを町民同士の口コミで言う。そして役場に行ってこういう話をしたらよく話を聞いてくれるんだったら、なかなかいいでしょ。本当に収入は上がらんかもしれないけど、良い町だと、こういう取り組みを受けましょう。

そのためには、町民の声に対して、ちゃんと話し合う体制をつくる。担当課、担当課長ね。大体、町長が出るわけにはいかないと思うんですが、そういう安心サービス評価連盟と、記録係と。広報への原稿書くぐらいやってもらって、パイプの主体は、議員さんに頼むとか、はボランティアグループを作るといった意見もあると思います。

増穂小学校の三件ばかり南の方にすごい家がある。この家に、古い太陽光温水器乗っていますが、ガラスが割れて、危ない、危ない。そういうことを町の役場に、言いにきました。そしたら、そういうことは枠外にあるからやれないって。町で強制的にそういうものを撤去してくれとは言っていない。住民が話に行くんだから、話をしてくれませんかかって言っても動かない。そうじゃなくて、前向きになってほしい。

**町長：** 本当に町の職員も含めて、一生懸命町民の声をしっかりと拾い上げながら、努力しています。また引き続きこういった場が開ければと思っています。ありがとうございます。

**参加者：** 私は25年前に札幌から平林へ住みました。平林、富士川町なぜ素晴らしいか。これは日本の中でも非常に自然災害が少ない。氷室神社には、1200年の大杉があります。それだけの大杉があるということは、いかに安全な場所であるか。移住にあたって十分注意をしたのが安全な場所に引っ越したい。そういうのがありまして平林。昔から人間が住んでいたところで、縄文人が住んでいたとかあります。ですから、非常に良い場所です。

先ほど、耕作放棄地や空き家バンクだという話ですが、平林は空き家があればすぐ埋まります。それだけ人気があります。高齢化に繋がって足りないのも、若い人の労働力で、この地域おこし協力隊とかがあってありますが、ああいうのは富士川町ではないんです。

もしあればそういう方が、地域で手伝いに入りながら、ここはいいとこだとなると、そこで生活を始める。そういったことは記載できますので、ご検討いただければ幸いです。

**町長：** 本当に移住先に、いいところだということで、うちの町を選んでいただき、そして地域にしっかりと根ざしていただいている。あのテレビでも拝見いたしました。ありがとうございます。まさにね、平林はすごくいいところで、富士山のロケーションも最高です。人も優しいし、素晴らしいところです。やはり若い労働力ということですね。そこが少ないということです。先ほど少し話をしたとおり、農村RMOという仕組みの中で、実は平林のみならず、菴米とか、穂積地区とか。連動しながら、これまでそれぞれ活動してきた地域が一つになって、中山間地域を活性化しようという動きがあります。

その中で地域おこし協力隊という、要望をいただいておりますので、今後若い方々が住んでいただき、地域で過ごしていただくような仕組みを地域とともに考えていきたいと思っています。ご指摘いただいたようなことをしっかりと努力し、進めていきたいと思っています。

**議長：** 最後に、議会を代表いたしまして一言申し上げさせていただきます。どなたかの質問がありました。議員は遊んでるんじゃないかと。とんでもない話です。私たち議員はみんな一生懸命で良い町にしようとして、努力しています。当局と一緒に。それを遊んでいるなんていう言い方をされて、とんでもない話です。それを書いた人は遊んでるかもしれませんが。でも他の議員はみんな一生懸命にやっています。一時期この町は信用が地に落ちました。それを元に戻すために議員は一生懸命でやっていますので、どうぞ皆さんご理解をお願いいたします。

**町長：** まさにいま議会と、車の両輪のようにやっております。ときには緊張感を持って、しっかりとチェック機能自体は、働かせていただいております。堀内議長を中心に、良識ある議員さんと、そして執行部。しっかりと緊張感を持ちながらも、町を前に進めていこうという努力をしています。ぜひとも皆さん方は、町執行部そして町長の動き、そして議会の動きもしっかり見ていただきながら、皆さんで良い町を、ともにワンチームで作っていきたいなと思っています。以上でございます。ありがとうございます。